

「宅老所を全国に広める会」全国研修会in仙台：報告

宅老所の役わり みやぎ宅老連絡会 会長 伊藤寿美子

「宅老所を全国に広める会」が、平成20年に市民協の東京に事務局をお願いすることになって、東京に集い今回準備し、実施することが出来ました。

基調講演やパネル討論を講聴した職員の意識はもちろんの事、一般市民に対しても、宅老所の存在をアピールすることが出来ました。

特に宅老所を、運営してる方々にとっては市民の大きな声、大きな力を感じる事が出来た大会だったと、多くの声が聞こえてきました。

私のところで、働く職員も、宅老所の置かれる立場を正しく理解し、宅老所の必要性が伝えられたと思います。

高齢者、認知症の方々については、究極の居場所になっている宅老所、必要で生まれ、必要だから各地で存在しているのです。宅老所の生まれた動機が色々あります。多くの人生の荷物を背負い、終末に向かい人々は歩んでいる中で、核家族になり介護の手が必要なときに家族の介護の担い手が少なかったり、必要なサービスがなかったときに、一人ひとりの命と向き合いながら、家族の思いを理解し、受け止めてしっかりと必要に柔軟に対応できるのが宅老所の持つ力です。

高齢者認知症の方々は常に家に帰りたいと願っていますが、なかなか実現困難です。又自宅に居ながら家に帰りたいと願う多くのお年寄りを見させていただいて自宅を開放した人たちも宮城県にも居ます。家族になりえてないけども、家族の思いを理解して、穏やかな生活を送って欲しいと願っています。

宅老所が、これからも自由に運営できるよう多くの市民の力添え頂きながら市民の声として宅老所の活動をこれからも取り組んで行きたいと考えています。

堀田先生には、私たちが説明してほしい法律の理解のところを細部にわたりお話して頂き、私たちが有料老人ホームと宅老所の違いは、コンセプトが大きく違うことを地域の実態も含めて理解して頂く努力が必要なのだと感じました。

厚生労働省の老健局・振興課 課長 土生栄二氏、日本経済新聞浅川澄一氏には、日曜日なのに宮城県まで出向いて頂き、あたたかいお言葉を掛けていただき、ありがたいと感じました。

宅老所のすばらしさを再認識してこれからも市民の力をお借りして宅老所を運営し続けたいと強く思いました。また来年は、三重県で大会をして欲しい声が上がりました

この大会に対して多くの市民活動している皆様に大変お世話になり深く感謝申し上げます。